

パレスチナ地域の紛争

社会A班 岩本丈秀 下坂元愛菜 高須萌衣 南兼昇 元島竜弥

1. はじめに

今日、世界中にはびこる紛争。私たちはその中でも極めて歴史が長く、複雑なパレスチナ問題に焦点をあてることにした。この紛争を私たち高校生の視点から捉え、色んな角度から詳細を探っていき、具体的な解決策を考えていくことにした。

2. 研究方法

まず、パレスチナ地域の場所、土地、歴史や背景、周辺国などとの関係を調べ、具体的に原因となる国などについても調べた。発生時期、関係国数、国連の介入の度合いなどの項目から分析し (※) 33の戦争や紛争に関するレーダーチャートを作り、それぞれを比較して性質の似ているものを見つけ出し、解決策を考えていく参考にしようとした。しかし似た状況の紛争がなく、参考にする解決策が見当たらなかったため、私たちにできる解決策を考えた。

3. 歴史

まず、この研究では以下の定義で話を進めることとする。

ユダヤ人…ユダヤ教を信仰する人々、あるいはユダヤ人を親に持つ人々。

イスラエル人…イスラエル国の国民。

アラブ人…アラブ諸国に居住し、アラビア語を話し、アラブ文化を受容している人々。

パレスチナ人…アラブ人で、パレスチナの土地に居住している人々、あるいは居住していたが難民となった人々。

パレスチナの地には紀元前 19 世紀からユダヤ人が住んでいて、紀元前 10 世紀にイスラエル王国という国を建国した。しかし他の国からの侵略や圧政を受けるにつれ、ユダヤ人は世界中に離散してしまい、この地にはアラブ人が住むことになった。

そして時が流れ、第一次世界大戦が勃発する。戦況を優位に進めたいイギリスはパレスチナを統治し、その分割について、①フランスと「サイクス・ピコ条約」、②ユダヤ人と「バルフォア宣言」、③アラブ人と「フセイン・マクマホン協定」という三つの約束を結んだ。ひとつの土地について三者と約束したことで、混乱が生じることになった。

第二次世界大戦の後、イギリスはこの問題を国際連合にゆだね、パレスチナ分割決議が可決された。しかしこれに不満を持った市民によるテロが激化していき、そこから中東戦争に発展していく。イスラエル vs.アラブ連盟の戦いの結果、イスラエルが勝利し、パレスチナの大部分を占めるイスラエル王国が建国された。これによって負けたアラブ側のパレスチナ人は限られた自治区の中で生活することになり、パレスチナ人難民が大量に発生し (約 462 万人)、さらにパレスチナの経済もイスラエル王国に支配されていくこととなる。

4. 考察 ～独自の解決策～

レーダーチャートを作り比較した結果、性質の似ているものはなく、改めてこの問題はほかに例を見ない独特な問題であることがわかった。そこで、私たちは新たな観点として思想の面から解決策を考えることにした。

その解決策について話すには、まずシオニズムという考え方について説明する必要がある。シオニズムとは、ユダヤ人がパレスチナの地に、ユダヤ人の国家、つまりイスラエルを建てようという思想である。現在のイスラエルの「シオニズム」は、パレスチナ人を差別する人種差別的な思想と、パレスチナ人に勝利するという軍事思想に基づいていると言える。しかしもともと初期のシオニズム運動のスローガンは「民なき土地に、土地なき民を」というものだった。つまり、パレスチナ人が住んでいたパレスチナの地にイスラエルを建国することは、この初期シオニズム運動のスローガンに対する矛盾となる。その結果シオニズムに反対する反シオニズムの運動が起こっていった。現在、少数派ではあるものの、イスラエル国内にも反シオニズムの人々がいるということがわかった。そこでこの思想をもっと多くの人に知ってもらい、反シオニズムの思想をイスラエル国内ないし世界に広めることで、反シオニズム派を増やし、イスラエルを内部から改革に導き、解決することができないかと考えた。そして、人のいなくなったパレスチナの地は国連管理の地とする。エルサレムの地はキリスト教、イスラム教、ユダヤ教の聖地として国連が保護・管理し、その保護・管理費用はその地を訪れる観光客から得られる観光収入によって賄うことを考えた。

では、土地がなくなったパレスチナ人とイスラエル人の居住地はどうするのか？そこで私たちは海上都市をつくるという案を考えた。それは、イスラエルの沖合いにイスラエル人のための新しい国を、パレスチナ人のための新しい国を、それぞれつくるというものである。もともとパレスチナの地には資源もなく農耕などに適した気候の範囲が狭いので抵抗も少ないのではないかと考えたからだ。こうすることで平和に解決できるのではないかと思った。

5. 課題

今回、自分達なりに解決策を考えたが、やはり現実的で具体的な案をねるということになると、出したアイデアに対してかかるコスト、また、その費用の捻出方法など、産業というまた違った分野の知識も必要となってくるということを痛感した。それらを踏まえ、色んな切り口から解決策を考えるとともに考えを膨らませながらパレスチナ問題と向き合っていくことが必要であると感じた。

6. 参考文献

- ・『最新地理図表 GEO』第一学習社
- ・『世界化するパレスチナ／イスラエル紛争』白杵陽・著 岩波新書

(※) 下線部については本校HPの課題研究ページ(2014年度)の『33の紛争や戦争に関するレーダーチャート』を参照。